

地域産業クラスタープロジェクトの 平成30年度と進捗状況と平成31年度の展開

< 目 次 >

- 地域産業クラスタープロジェクト一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 地域産業クラスタープロジェクトの
 平成30年度の進捗状況と平成31年度の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～21
- 地域産業クラスタープロジェクトの追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

地域産業クラスタープロジェクト一覧

第一次産業など、地域に根差した産業を核として、第一次産業から第三次産業までの産業集積を図る

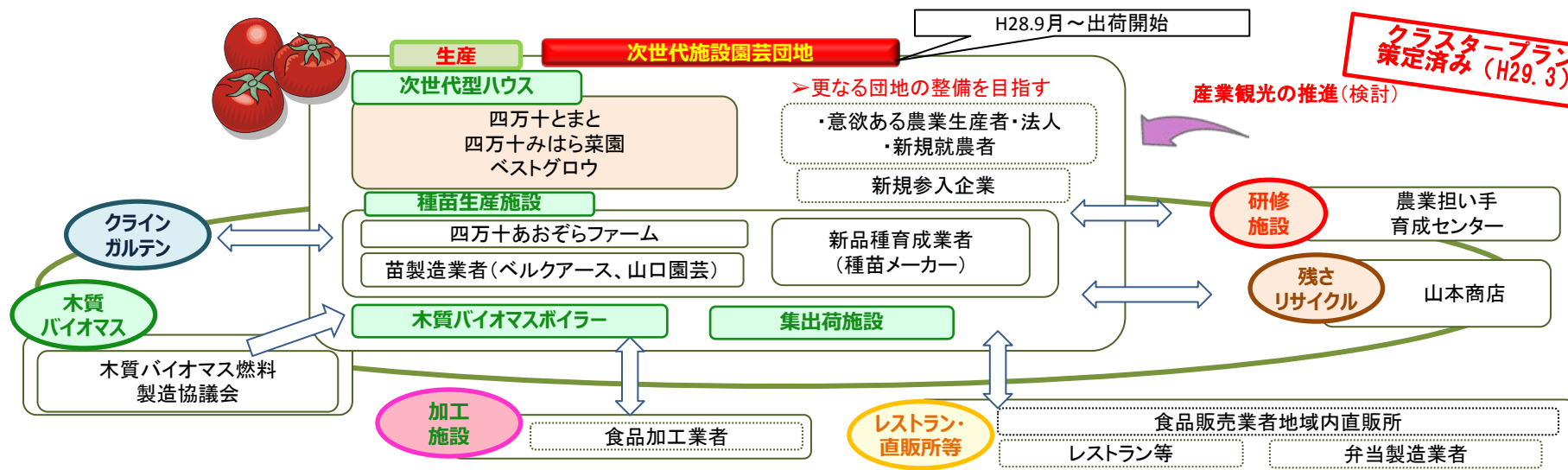
⇒1つのプロジェクトを追加し、**21**のプロジェクトを展開

農業	①四万十次世代モデルプロジェクト
	②日高村トマト産地拡大プロジェクト
	③南国市還元野菜プロジェクト
	④日本一のニラ産地拡大プロジェクト
	⑤日本一のナス産地拡大プロジェクト
	⑥嶺北畜産クラスターによる地域の活性化
	⑦四万十ポークブランド推進プロジェクト
	⑧いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト
	⑨四万十の栗プロジェクト
	⑩南国市農業クラスタープロジェクト（ニラ）
	NEW ⑪宿毛市イチゴ・柑橘成長プロジェクト

林業	①林業・木材産業クラスタープロジェクト
	②嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化
	③佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター
水産業	①土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト
	②宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト
	③宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト
食品加工	①加工・業務用野菜の産地化プロジェクト
	②株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター
その他	①奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター
	②竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出

農業① 四万十次世代モデルプロジェクト (四万十町)

・次世代施設園芸団地でのトマト生産を核として、バイオマス供給施設、種苗供給施設、農産品加工・販売業者、残さリサイクル業者地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。



【H30年度の取組状況と課題】

次世代団地におけるトマトの安定生産と加工品開発への具体的取り組み

▼取組状況

1次

- ・1月末現在、収量は目標の125%と順調に推移
- ・社員への病害対策研修会の実施
- ・高単価の時期(9～10月)を狙った早期定植(6月下旬)
- ・トマト残さリサイクル事業の開始(6月)
- ・種苗生産施設の増設整備(7.8a、H31.3完成)

2次3次:

- ・トマト加工品のふるさと納税返礼品での展開
- ・**トマトカレー出荷量(H30.4～H31.2) 2,010パック**
- ・トマトスパークリング酒の商品化
- ・地元加工事業者とのコラボ商品(たまご豆腐)の販売

▼課題

- ・次世代団地の事業者の経営安定
- ・町ぐるみの支援による認知度向上と地産外商の取り組み強化
- ・ブランディングしたトマト加工品の販路拡大

【H31年度の主な取組予定】

1次

- ・養液分析、病害虫診断による次世代団地の栽培支援
- ・**自動運搬ロボットなどによる省力化への取り組み**

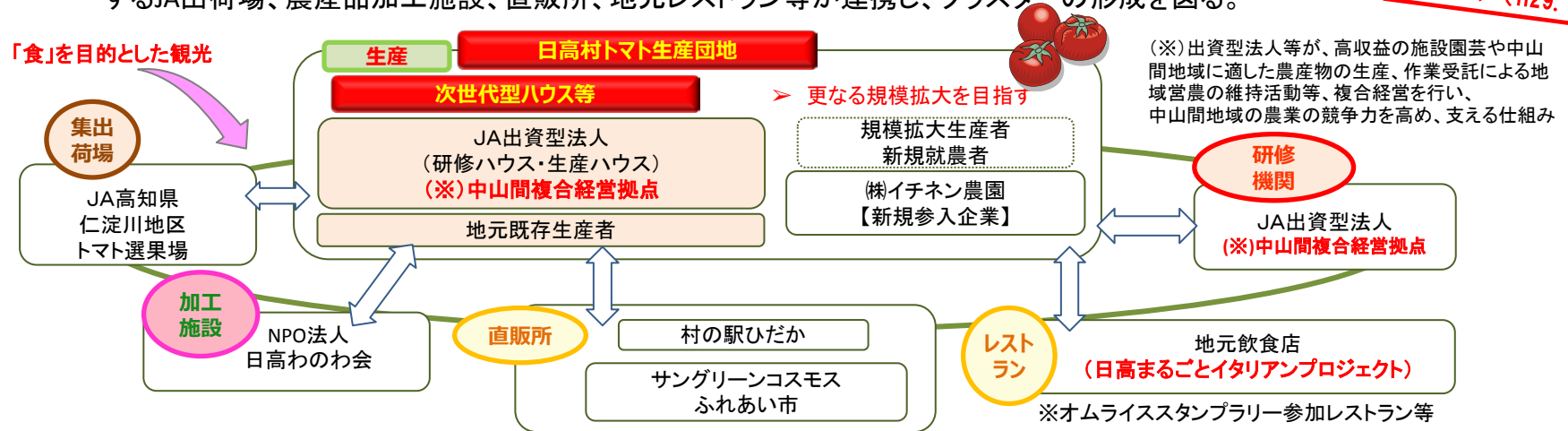
2次・3次:

- ・トマト加工品の商品化支援・販路拡大

農業② 日高村トマト産地拡大プロジェクト(日高村)

・日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点(※)の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。

クラスタープラン
策定済み (H29.1.5)



【H30年度の取組状況と課題】

次世代型ハウス(50a)の栽培開始への支援、新品目(ミニトマト)の地元加工・販売検討

▼取組状況

1次

- ・イチネン農園次世代型ハウス整備(1.6ha、9月定植)
病害などによりやや低い収量で推移(1月末計画比86.6%)
- ・JAトマト部会販売額(H30.4~H31.1)420百万円
- ・就農希望者対応、担い手確保・育成方針の策定
- ・日高村農福連携サポートチーム結成(12月)
→1名雇用(トマト農家)

2次・3次:

- ・日高わのわ会による新商品の販売開始
(トマトピューレ、トマトみそ、トマトチーズケーキ)
- ・ミニトマト加工品試作(イチネン農園がOEM生産検討)
- ・オムライスをテーマに絵本コンクールを開催、238点の応募があり
最優秀作品を7月に発売、PR
- ・トマトを核とした村づくりの推進に向けた「日高の未来フェスタ」
の開催(3/24)

▼課題

- ・新規就農者の確保、イチネン農園の経営安定
- ・村全体を巻き込んだ事業展開

【H31年度の主な取組予定】

1次

- ・イチネン農園、コスモスアグリサポートの経営安定
病虫害防除、新規就農者確保対策

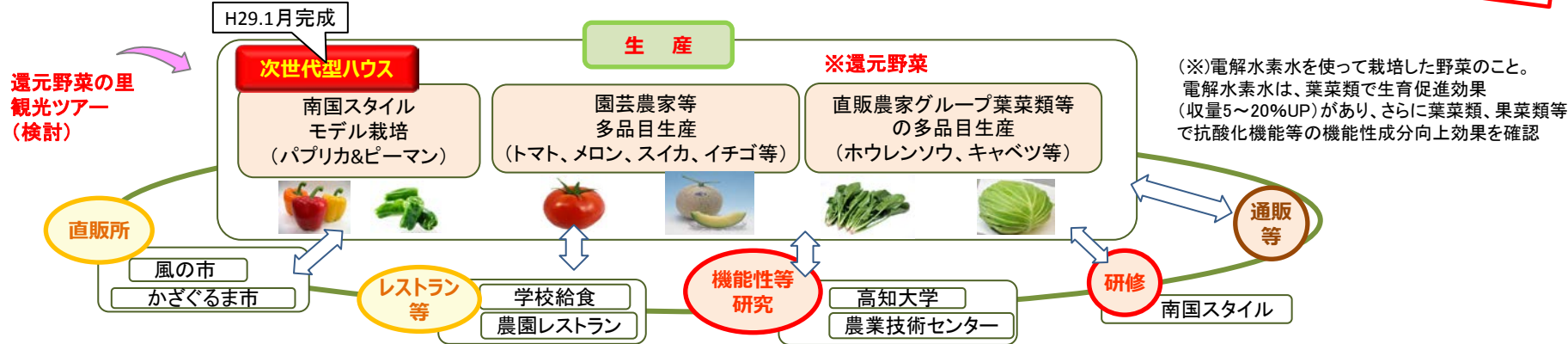
2次・3次

- ・日高の未来会議の継続実施
- ・イチネン農園のミニトマト加工品の開発・販売

農業③ 南国市還元野菜プロジェクト(南国市)

・JA出資型法人「南国スタイル」を中心として、「還元野菜(※)」の生産拡大を図るとともに、関連する直販所や農園レストラン等と連携した還元野菜販売や、メニュー提案等を実施することにより、還元野菜の里づくりを目指す。

クラスタープラン
策定済み (H29.3)



【H30年度の取組状況と課題】

次世代型ハウスでのピーマン・パプリカ栽培と、さらなる生産拡大の検討、電解水素水の野菜の収量や機能性向上効果検証継続

▼取組状況

1次：

- ・栽培面積 **パプリカ32a→49a** へ拡大、9月定植
ピーマン33a→16a へ縮小、8月定植
- ・2作目は両品目とも収穫を開始しており、生育は順調
収量は計画通りに推移 (1月末)
- ・パプリカの販売先の検討、労務管理スキルの向上
- ・トリム製品の販促資材としてパプリカを活用
(トリムがパプリカを購入)

2次・3次：

- ・セット品目の充実 (トマト、パプリカ、ピーマン、軟弱野菜)、
価格見直しによるセット販売の強化
- ・192セットを販売(2月)、300セット販売予定(3月)
- ・かざぐるま市に併設する農家レストラン(4月オープン予定)での
活用を検討

▼課題

- ・パプリカの販売単価の向上
- ・還元野菜生産者、品目の拡大

【H31年度の主な取組予定】

1次

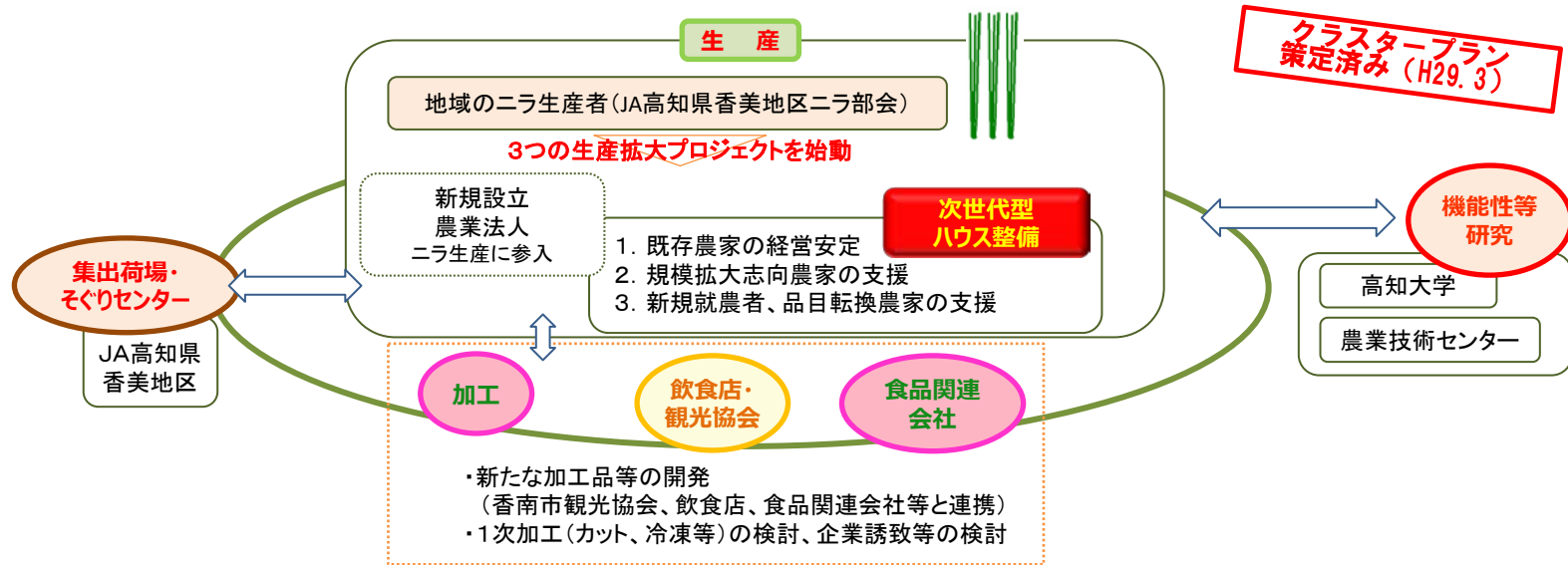
- ・次世代型ハウスにおけるパプリカ、ピーマンの栽培指導

2次・3次

- ・かざぐるま市などの還元野菜コーナーの拡充
- ・還元野菜セットの販売時期の拡充 (秋、冬、春)
- ・トリムとの連携による販売拡充

農業④ 日本一のニラ産地拡大プロジェクト(香南市、香美市)

・日本一の生産量を誇るJA高知県香美地区の生産拡大を目指し、3つの生産拡大プロジェクトに取り組みとともに、食品関連会社等の誘致を視野に入れた新たな加工品の開発、そぐりセンターの整備により、クラスターの形成を図る。



【H30年度の実績と課題】

ニラそぐりセンター整備の検討と研修施設の整備

▼取組状況

1次：

- アンケート調査を実施（6月 そぐりセンター利用希望：62%, 113戸、規模拡大意向の農家：18%, 32戸）
- 機器導入（そぐり機3台、加温機11台、環境制御機器8台）
- そぐりセンター作業部会設立（1月、部会代表、園芸部代表、JA、農振センター）
- 研修用ハウスの整備 H30: 10a×3棟（次年度以降、10a×7棟を整備予定: 合計10棟）

2次・3次：

- 食育を目的とした地元小学校でのニラ栽培の実施
- 香南カーニバルでのニラ料理の提供(45店舗中9店舗)

▼課題

- そぐりセンター設置場所の検討
- ニラプロジェクトの再強化

【H31年度の実績と課題】

1次

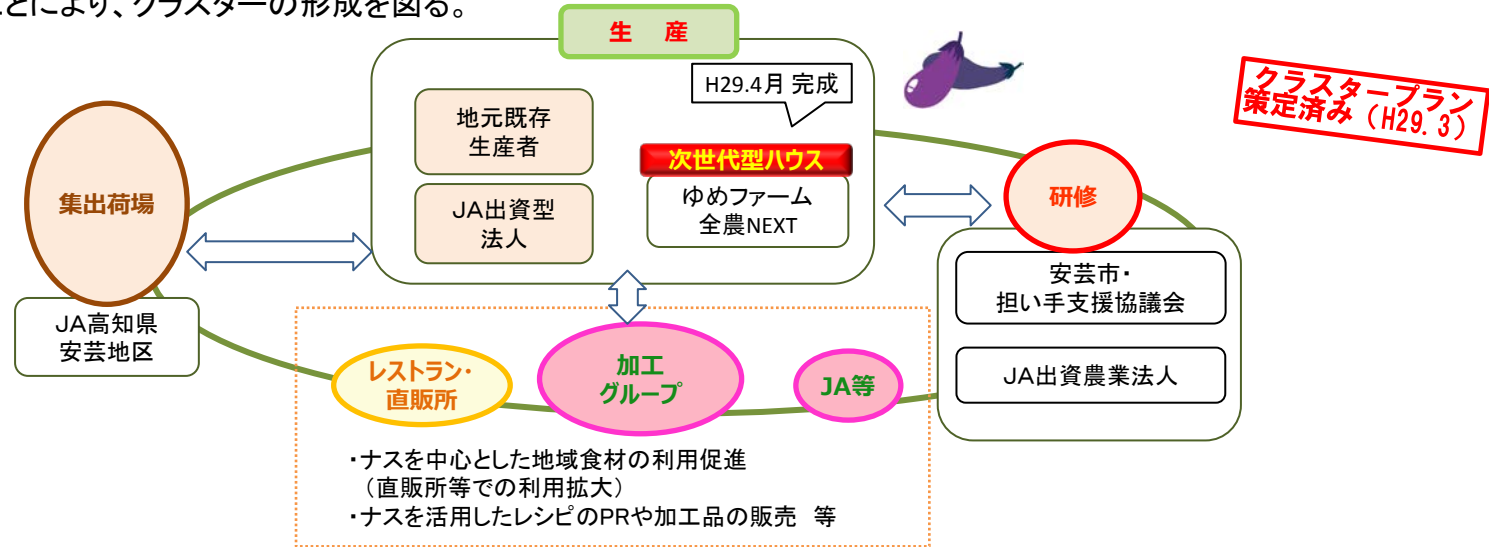
- ニラそぐりセンター設置に向けた協議の継続(H31予定)
- 事業導入などによる規模拡大意向農家への支援
- 研修施設の運営支援

2次・3次

- 香南カーニバルでのニラ料理の提供数の増
- ニラ関連イベントの開催
- 学校給食での使用量増に向けた協議

農業⑤ 日本一のナス産地拡大プロジェクト(安芸市)

・県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を図るとともに、地域の直販所や飲食店等での利用促進、ナス料理や加工・特産品の消費拡大に取り組むことにより、クラスターの形成を図る。



【H30年度の実行状況と課題】

次世代型ハウスでの生産開始と、幕末維新博イベントと連携した消費拡大への取り組み検討

▼実行状況

1次：

- ・平成31園芸年度に向けて116戸、12.3haに環境制御技術を導入。環境制御を利用した病害防除推進
- ・雇用対策として安芸市農福連携研究会を立ち上げ
→生産者へ3名、出荷場へ4名
- ・次世代型ハウスの2作目、8月定植、50aを養液栽培とし、収量は目標（30t/10a）通りに推移（1月末）

2次・3次：

- ・地域食材である「安芸ナス」の地域内での認知度を上げる取組を引き続き実施（リーフレットの作成など）
- ・安芸市内ナス料理マップの作成・評価・修正
- ・ナスを使った加工品の開発（なす餃子等）

▼課題

- ・次世代型ハウスにおける労力確保（パート等）
- ・ナスを使った加工品の販売体制の確立

【H31年度の実行予定】

1次

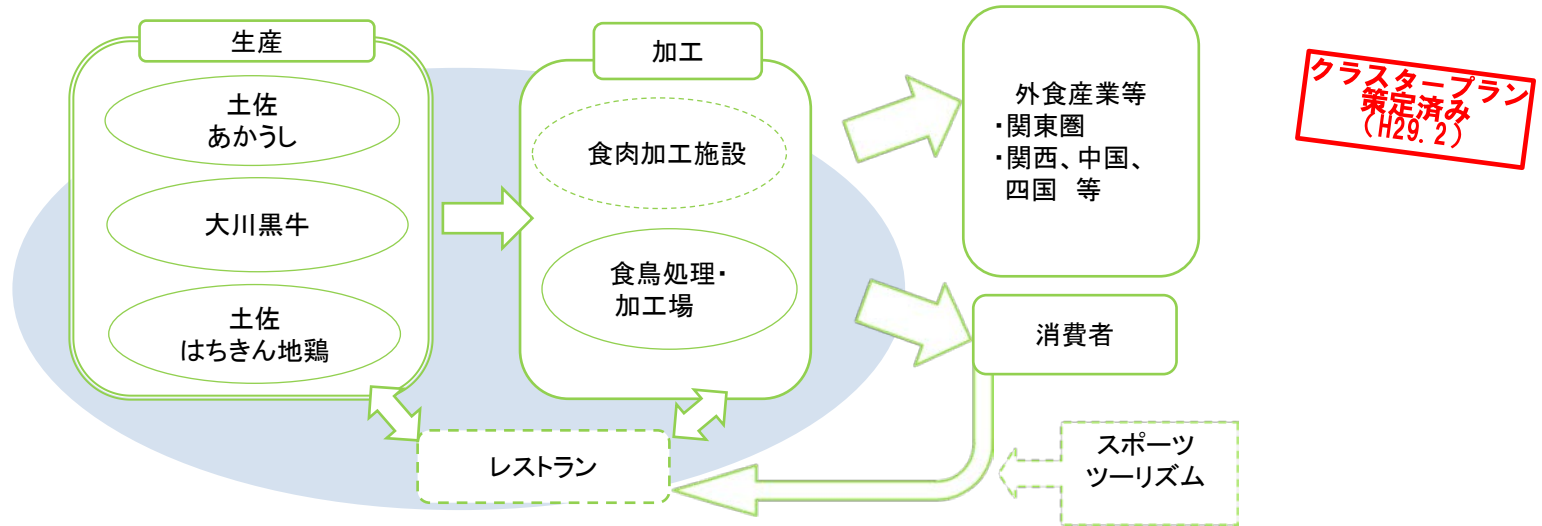
- ・次世代型ハウスへの栽培指導
- ・**環境制御機器の導入支援**、農福連携の推進

2次・3次

- ・道の駅大山にて「よいナスの日」（4/17）イベント実施
- ・ナスの機能性PRによる販売促進
- ・**ナスの機能性を活用した加工品開発**

農業⑥ 嶺北畜産クラスターによる地域の活性化(嶺北地域)

・「土佐あかうし」「大川黒牛」「土佐はちきん地鶏」のさらなる生産拡大と6次産業化による付加価値の向上を図る。また、さめうら湖や山岳資源を活用したスポーツツーリズムにより観光振興・交流人口の拡大を図りながら、レストラン事業の展開も検討する。



【H30年度の取組状況と課題】

土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏の増頭・増羽、食鳥処理・加工施設の円滑な運営及び販売促進、カヌー利用に係る環境整備

▼取組状況

- 1～3次：大川村PT産業振興部会（5,11,2月）
- 1次：土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏の増頭・増羽
- 2次：食鳥処理・加工施設の本格稼働（4月）
- 3次：土佐れいほく博推進協議会（8月）
- さめうら荘プレオープン(12月)、浮棧橋設置（2月）、さめうら湖周辺活用基本計画策定（3月）

▼課題

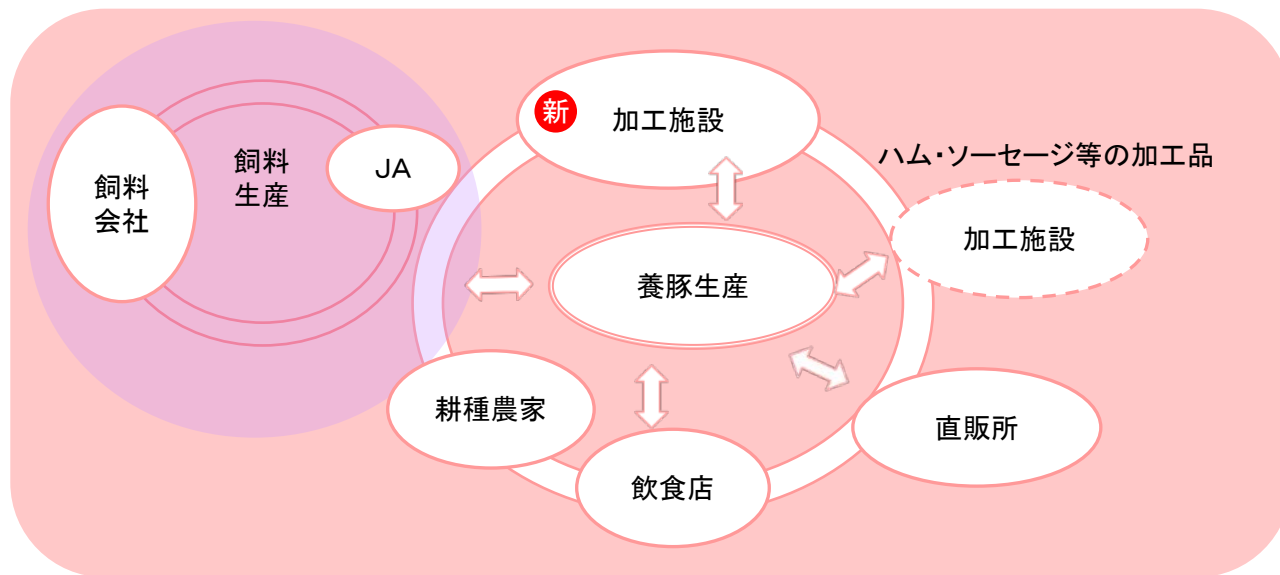
- ・さらなる増頭対策と堆肥の活用(土佐あかうし)
- ・円滑な食鳥処理体制の早期構築及びブランドの再構築(処理工程の改善、マネジメント人材の確保)
- ・土佐れいほく博の開催に向けた準備の加速化
- ・土佐はちきん地鶏の地産地消の推進

【H31年度の主な取組予定】

- 1次：さらなる増頭・増羽、堆肥の活用方法検討
- 2次：円滑な食肉処理体制の早期構築（マネジメント人材の確保、処理工程の改善及び職員の技術向上）に向けた支援の実施
- 3次：土佐はちきん地鶏の販路拡大に向けた営業
- さめうら荘グランドオープン(4月予定)に伴う土佐あかうしなど、地元食材を使った新しいメニューの提供
- 土佐れいほく博(7/7～12/25)の企画における肉を中心としたスタンラリー等の実施

農業⑦ 四万十ポークブランド推進プロジェクト(四万十町)

・養豚農家の生産基盤の強化を図るとともに、関係機関が連携し安心安全な四万十ポークを消費者に安定供給できる体制を構築し、新たな6次産業化ビジネスの展開とあわせて地域の所得向上につなげる。



クラスタープラン
策定済み (H29.2)

【H30年度の取組状況と課題】

年間出荷頭数の増加、営業活動等による販路の拡大

▼取組状況

- 1次：新設及び補改修した豚舎による出荷頭数の増頭
出荷頭数:8,806頭(2月末) <対前年同期比102%>
 糞尿コンポストの導入 (3月7日完成検査)
 農場HACCP認証申請 (3月中)
- 2次：四国デュロックファームが新商品開発・販売開始 (6月～)
 (「四万十ポーク100%無添加ハンバーグ」)
 「四万十ポーク」認証に向けた
 意見交換会(12月)及び研修会 (2月)
- 3次：四国デュロックファームの加工・直販所及び飲食店売上高
 : 78,413千円 (H31.2末) 対前年同期比117%
 雇用者数 : 1人(H27) → 21人(H30)

▼課題

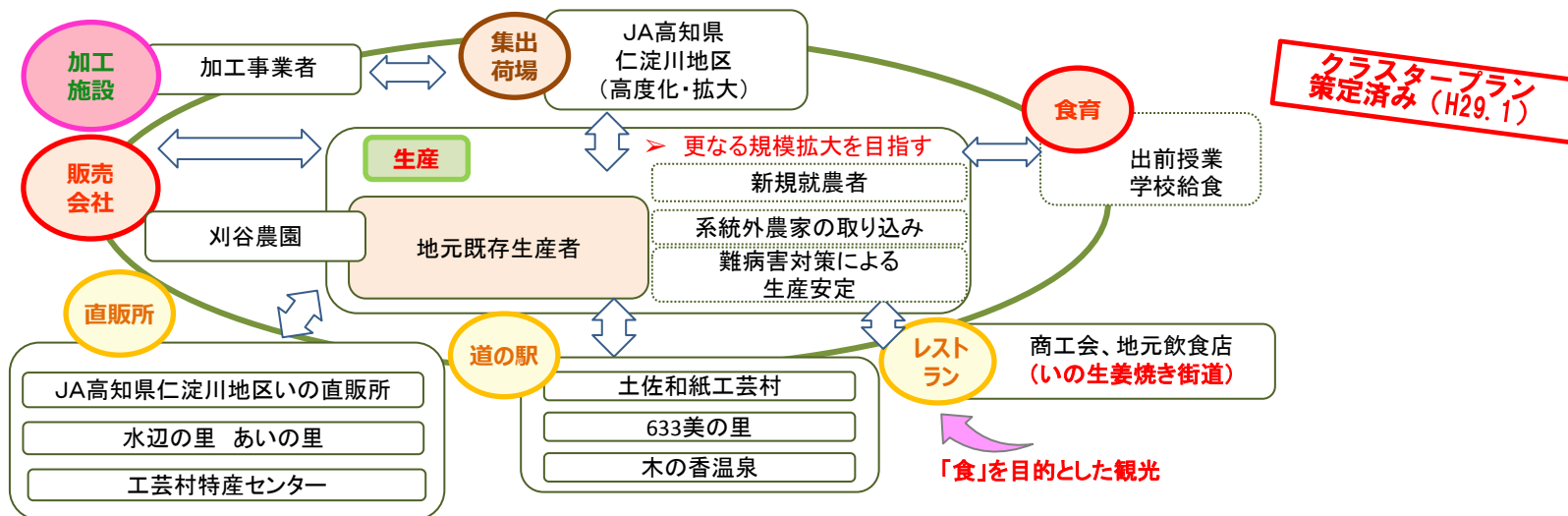
- ・畜舎の老朽化、環境問題への対応
- ・豚加工品の安定生産と販路拡大

【H31年度の主な取組予定】

- 1次:
- ・高能力優良種豚の導入及び増頭
 - ・農場HACCPの推進による疾病対策の強化
 - ・豚の集約的管理の強化による事故率の低減実証
- 2次・3次 :
- ・ブランド力強化のための商標登録 (検討会の開催)
 - ・常温で販売可能な新商品の開発 (四国デュロックファーム)
 - ・新加工場整備による豚まん等の増産(道の駅あぐり窪川)
(2020年度完成予定)

農業⑧ いの町生姜生産・販売拡大プロジェクト(いの町)

・いの町の生姜生産農家を中心として、生姜の集出荷場整備と併せ、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。



【H30年度の取組状況と課題】

生姜の生産基盤の強化と幕末維新博イベント等での生姜スイーツ等販売検討

▼取組状況

1次:

- ・栽培管理等の指導
- ・ショウガ生産拡大の候補地選定の推進
- ・研修生に対する定期的な勉強会の開催 (9回)

2次・3次:

- ・生姜焼き街道のスタンプラリーと生姜スイーツの連携強化
- ・いの町中心市街地活性化協議会を立ち上げ、生姜の活用を含めた活性化策の検討を開始 (8月)
- ・「Kami祭」にて生姜料理をPR(11月)
- ・生姜の加工品開発(芽生姜のラッキョウ酢漬け)の検討

▼課題

- ・難防除病害への対策
- ・生姜加工品の開発・販売
- ・生姜焼き街道スタンプラリーのさらなる取り組み強化

【H31年度の主な取組予定】

1次

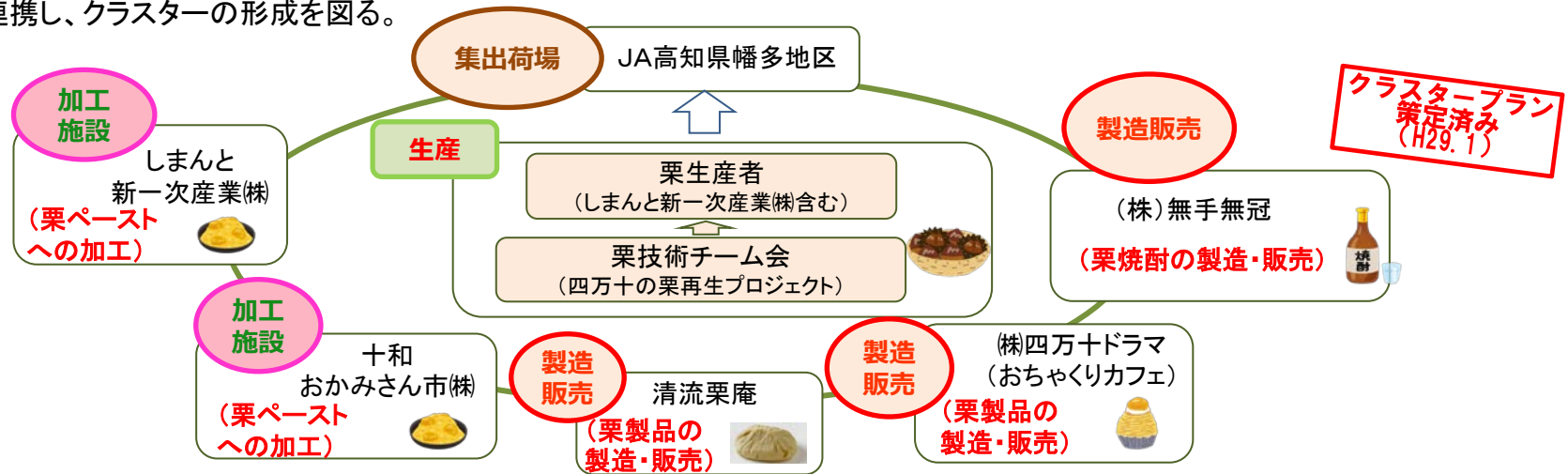
- ・栽培候補地の確保・選定
- ・難防除病害対策、栽培技術指導、GAP推進

2次・3次

- ・生姜の試作品開発・商品化
- ・各種イベントへの参加
- ・生姜焼き街道とオムライス街道の連携

農業⑨ 四万十の栗プロジェクト(四万十町)

・四万十の栗再生プロジェクト協議会を中心として栗の生産拡大を図るとともに、ペースト加工施設、カフェ、栗焼酎販売会社等が連携し、クラスターの形成を図る。



【H30年度の取組状況と課題】

栗ペースト加工施設の整備とチーム活動による栗の生産性の向上

▼取組状況

1次：

- ・特産栗を生産する農家を対象に選果講習、剪定講習会、剪定技術者による現地検討会の開催
- ・8/3 現地検討会実施。窪川地区での栗栽培開始が決定 (1.3ha、しまんと新一次産業)
- ・四万十町の次世代団地の残さを堆肥化し、栗の生産に活用する体制づくり
- ・H30出荷量：6.71 t (前年比28%)
裏年と7月上旬以降の高温乾燥・台風の影響による不作

2次・3次：

- ・WGの定期開催、観光分野との連携を推進
- ・外商に向け、栗ペーストの品質向上のため、加工方法についてアドバイザーを招聘 (8/9、10)
- ・栗加工品製造工場の整備に向けた検討

▼課題

- ・生産量の増大・品質確保

【H31年度の主な取組予定】

1次

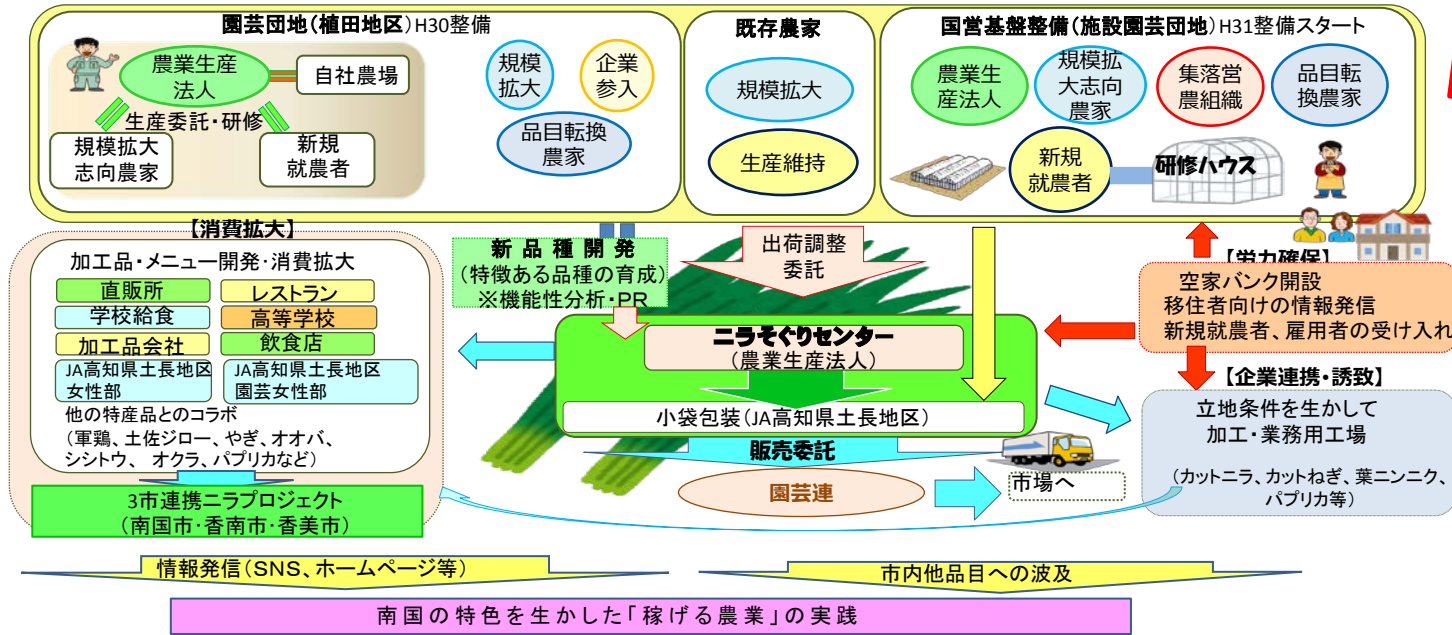
- ・剪定技術者による剪定講習会、新改植推進

2次・3次

- ・栗加工品製造工場の整備に向けた支援(2020年度稼働予定)
- ・栗ペーストの品質向上と販路拡大

農業⑩ 南国市農業クラスタープロジェクト(ニラ)(南国市)

・農業生産法人が運営するそぐりセンターを活用し、地元農家や企業参入による生産拡大を図るとともに、直販所、レストラン、商工会等が連携し、クラスターの形成を図る。 【生産拡大】



【H30年度の取組状況と課題】

ニラのそぐりセンターの実証試験とニラを使用した加工品・メニューの検討

▼取組状況

1次：

- ・そぐり機1ライン（そぐり機1台＋計量結束機1台）による実証試験（H30.7月～H31.2月、5名を雇用）
- ・新規参入予定企業のニラ生産計画策定の支援
- ・園芸団地用地の整備、規模拡大意向農家への説明会（9/11、南国市植田）

2次・3次：

- ・プロジェクトチーム会開催による今後の取り組みの方向性の確認
- ・かざぐるま市に併設する農家レストラン（4月オープン予定）での活用を検討
- ・そぐりセンター実証試験から生じるニラの切り下を用いたキムチ、茶の開発検討（地元食品加工事業者と連携）

▼課題

- ・園芸団地用地の確保
- ・ニラそぐりセンターの候補地選定
- ・2次3次の関連産業の集積

【H31年度の主な取組予定】

1次

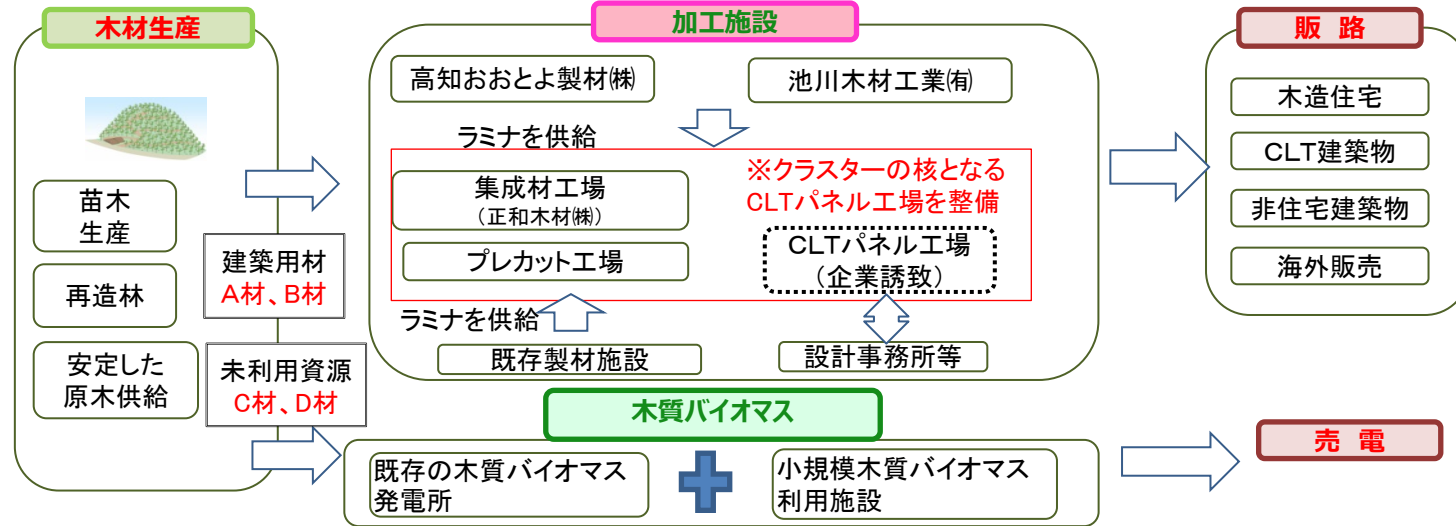
- ・既存農家の規模拡大、新規就農支援
- ・そぐりセンター設置へ向けた支援

2次・3次

- ・加工品、地元レストランメニュー開発の具体化

林業① 林業・木材産業クラスタープロジェクト(県内一円)

・木材加工を核として、木材生産から販売・再生産までの好循環を生み出す。



【H30年度の実績と課題】

森林資源を余すことなく活用する川上から川下までの仕組みを生かし、原木生産の拡大、再生林の推進、建築物へのCLTやA材の利用促進

▼取組状況

1次：

- ・森林組合支援WGによる作業システムの改善支援(16組合)
- ・一貫作業システムの調査及び指導(5回)
- ・製材事業体の事業戦略の実践(H29策定2社)及び新規策定(3社)への支援(4月～)
- ・林業大学校による担い手の育成(研修生：40人)

2次：

- ・人工乾燥材・JAS製品の生産拡大に向けた県内製材工場との協議及び事業化の検討(5月～)
- ・新たな内装材等の開発(17アイテム)・改良(37アイテム)

3次：

- ・TOSAZAIセンターを中心に県外流通拠点や県外パートナー企業等との連携を強化(281社を訪問)
- ・CLT建築物(完成8棟・構造・完成研修会8回)をはじめ非住宅建築物の木造化等の推進

▼課題

- ・再生林率の向上
- ・A材を活用した高付加価値製品の開発及び販路拡大
- ・木材需要の拡大、木造建築を担う建築士の育成

【H31年度の実績と課題】

1次：

- ・地域ぐるみの再生林推進体制の構築

2次：

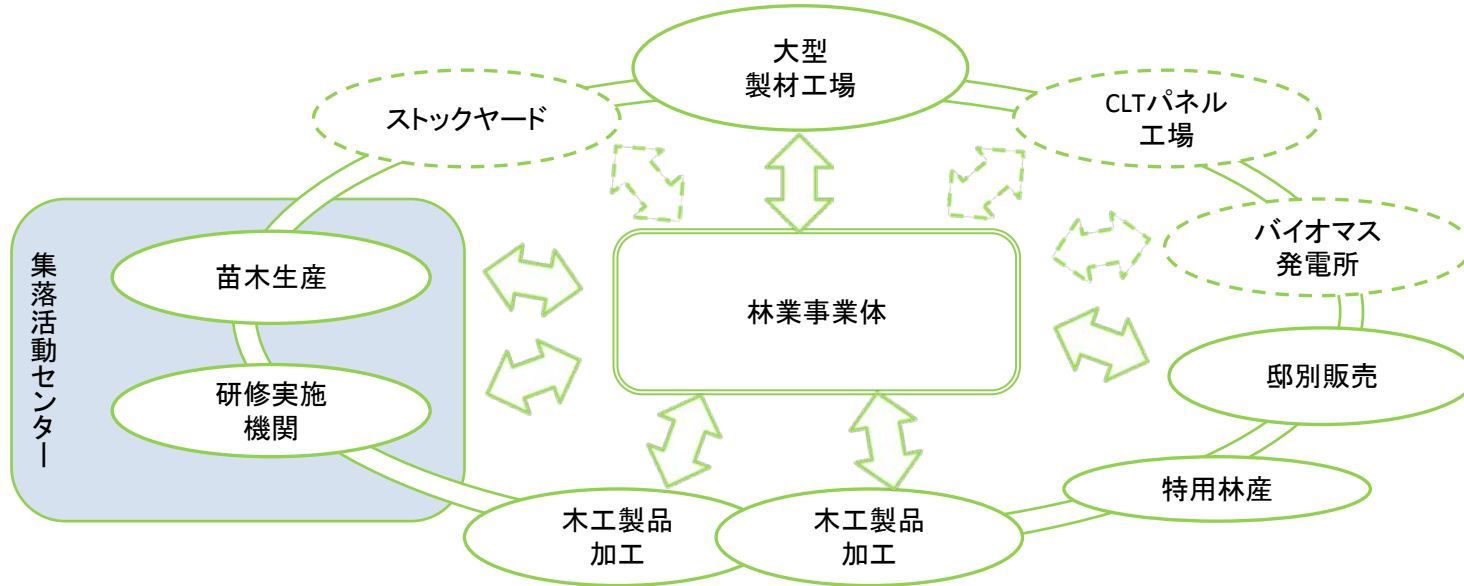
- ・共同乾燥(JAS)施設等の整備の推進
- ・内装材などの付加価値の高い製品開発の推進

3次：

- ・非住宅木造建築のプッシュ型提案・相談窓口の設置
- ・林業大学校等における木造建築を担う建築士の育成(リカレント教育の強化)

林業② 嶺北地域の林業クラスターによる地域の活性化(嶺北地域)

・嶺北地域の豊富な森林資源を余すところなく活用し、地域経済の活性化につなげる。



【H30年度の取組状況と課題】

原木の安定供給、嶺北材及び木工製品の販売促進活動、スギコンテナ苗出荷

▼取組状況

1～3次：

・嶺北広域原木安定供給協議会開催（5月、2月）

1次：

・森林組合ほか素材生産事業者(10事業者)との協議・支援、西峯スギコンテナ育苗ハウス整備（2棟目:5月）及びスギコンテナ苗の移植(40,000本)

2次：

・ストックヤード造成工事の継続

3次：

・商談会・フェア等への出展、県外への営業活動、集落活動センターいしはらの里における林業研修の実施（5人）

▼課題

- ・原木の安定供給
- ・スギ苗の継続的な販売先の確保と栽培技術の向上
- ・嶺北材及び木工製品の販路拡大

【H31年度の主な取り組み予定】

1～3次：

・嶺北広域原木安定供給協議会による素材流通等のICT化に伴う作業部会の運営、西峰スギコンテナ苗栽培に係る勉強会等の開催

1次：

・森林組合支援ワーキング等の開催

2次：

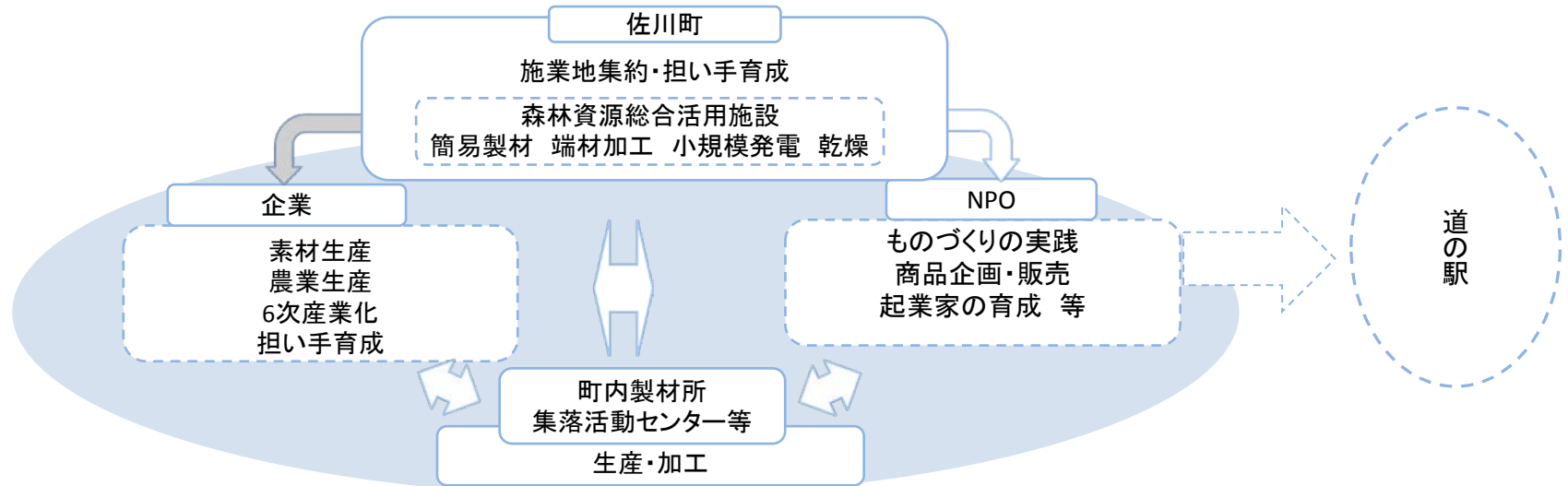
・ストックヤード造成工事の継続

3次：

・れいほくスケルトンの四国内（香川県中心）における販売活動
・販路拡大に向けた商品の開発

林業③ 佐川町で展開する自伐型林業での木材産業クラスター（佐川町）

・自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。



【H30年度の取組状況と課題】

森林長期施業管理契約締結の推進、地域おこし協力隊の採用・育成と自立化による自伐型林業のビジネスモデルづくり、地域おこし協力隊（ものづくり関連）の採用、学校教育、集落活動センター等との連携

▼取組状況

1次：

- ・地域おこし協力隊の採用（2名）
- ・地域おこし協力隊による任意団体への町事業委託
- ・森林長期施業管理契約の締結（213ha 3月末見込）

2次・3次：

- ・地域おこし協力隊（ものづくり関連）の採用（4名）
- ・学校教育、集落活動センター等と連携し、町産材を活用したWS等を開催
- ・ものづくりコンシェルジュ事業の開始
- ・町産材を活用した商品開発（植物模型）
- ・わんさかわっしょい体験博の開催（H31.2.2～3.10）

▼課題

- ・山林の集約化
- ・自伐型林業のビジネスモデルの構築

【H31年度の主な取り組み予定】

1次：

- ・森林長期施業管理契約締結の推進
- ・地域おこし協力隊の採用・育成と自立化に向けた協議

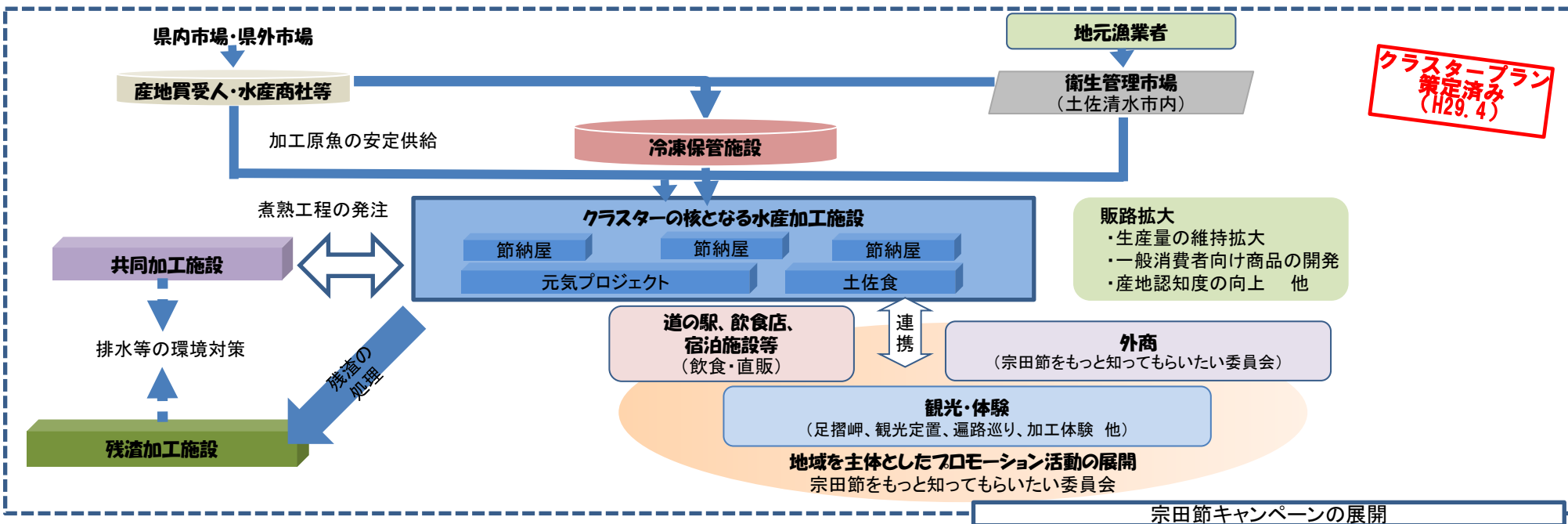
2次：

- ・森林資源総合活用施設の整備検討

3次：

- ・道の駅の整備検討

水産業① 土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト(土佐清水市)



【H30年度の実施状況と課題】

宗田節関連産業の維持・拡大に向け、必要となる施設の計画的な整備及び宗田節の認知度向上と地域への誘客を図る

▼ 実施状況

- 全体：「土佐清水メジカ産業プロジェクト推進協議会」でクラスタープランを更新
- 1次：担い手育成団体支援事業で土佐清水元気プロジェクトに1名が就職、1名が研修中、新規漁業就業者支援事業で2名が研修中
- 2次：冷凍保管施設が完成(2月)、残渣加工施設の実施設計完了、共同加工施設の基本計画策定、節納屋が衛生管理体制の高度化を目指し県版HACCP認証の取得に向けた勉強会を開催
- 3次：「宗田節ロード2019」を展開、県外の飲食店で宗田節フェアを展開、各種イベントで宗田節をPR、宗田節新商品を発売

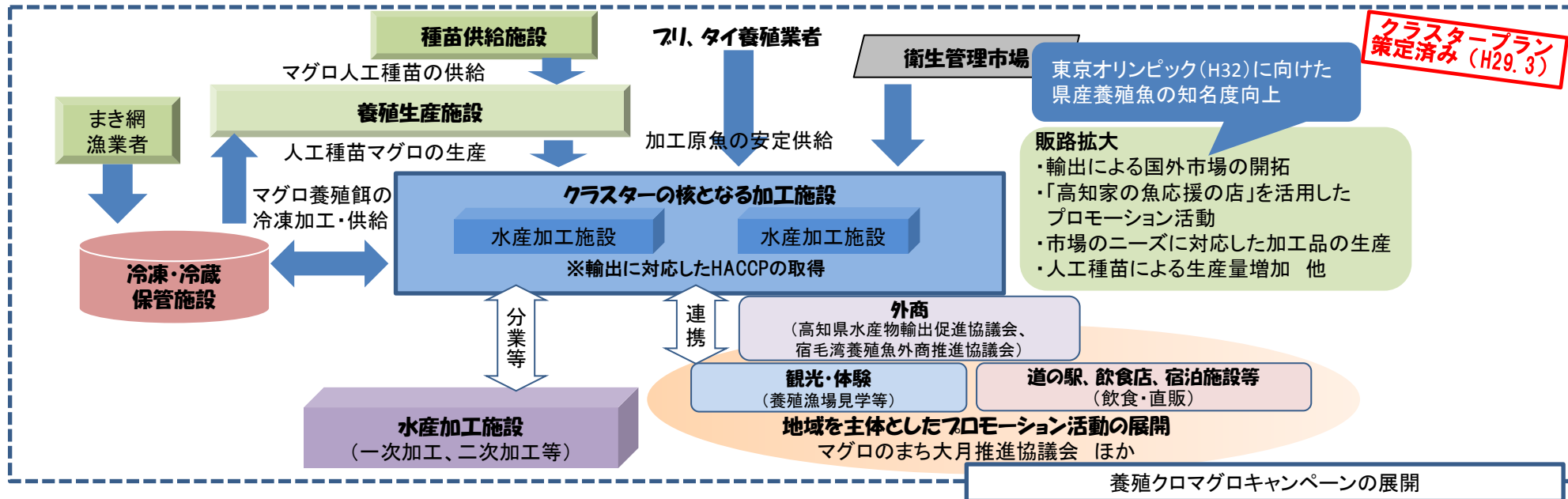
▼ 課題

- ・担い手の確保 ・衛生管理体制の高度化
- ・宗田節を活用した新商品開発

【H31年度の実施計画】

- 全体：「土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト」の進捗管理
- 1次：担い手育成団体支援事業による支援、(一社)高知県漁業就業支援センターによる就業相談から就業後までの一括支援
- 2次：残渣加工施設の本体工事(H31～2020年度予定) 共同加工施設の実施設計(2020年度完成予定) 節納屋の県版HACCP認証取得推進 **宗田節新商品(スープロス)製造設備の整備**
- 3次：「宗田節ロード2019」を継続 (H31.12月末まで)、各種イベントで宗田節をPR、**宗田節新商品(スープロス)の販売**

水産業② 宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト(宿毛市、大月町)



【H30年度の取組状況と課題】

クラスターの核となる大型水産加工施設を整備し、既存加工施設と養殖魚の前処理加工や輸出に取り組む、併せて養殖魚のPR活動を実施し、産地知名度の向上と地域への誘客促進を図る

▼取組状況

- 全体：「宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト推進協議会」がクラスタープランを更新
- 1次：クロマグロ人工種苗生産で、合計5,500尾を冲出したが、斃死が止まらず中間育成中止
- 2次：(株)高知道水の大型水産加工施設が完成(3月)、既存加工施設等が養殖前処理加工を展開、加工事業者が輸出に向けた取組を推進(対米HACCP取得に向けたコンサルティング等)
- 3次：県外の飲食店や量販店、県内外のイベント等で「大月産本マグロ」のPR、地域でマグロ祭りや、モニターツアーを開催⇒四国内の旅行会社のツアーメニューに採用

▼課題

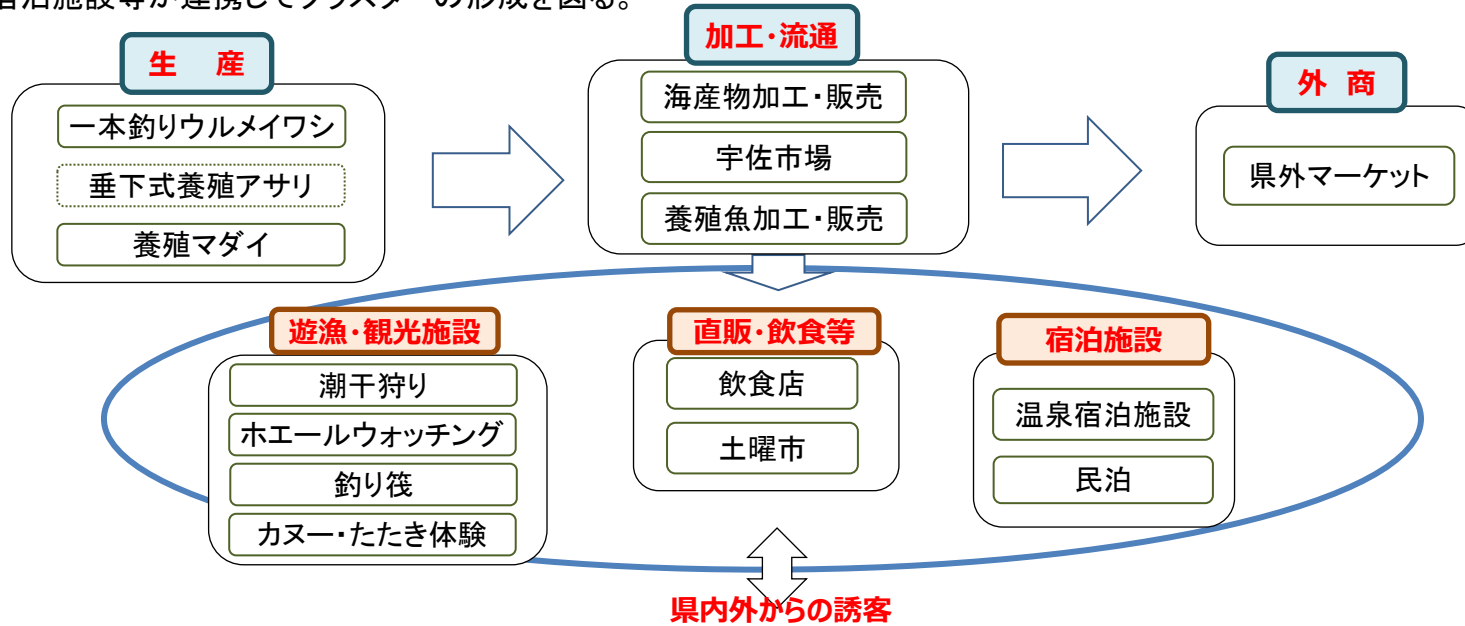
- ・生産拡大に向けた人工種苗の導入
- ・安定的な販路の確保・加工施設従業員の確保

【H31年度の主な取り組み予定】

- 1次：クロマグロ受精卵生産委託事業を継続、クロマグロ人工種苗生産委託事業を継続
- 2次：(株)高知道水の操業開始(7/1予定)、高知道水を含め加工事業者の輸出の本格展開(中国・米国)
(対米HACCP取得に向けたコンサルティング等)
- 3次：県外の飲食店や量販店、県内外のイベント等で「大月産本マグロ」をPR
「大月産本マグロ」のPR用販促資材の作成
ツアーメニューのブラッシュアップ

水産業③ 宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト(土佐市、須崎市)

・ウルメイワシ、アサリ、養殖マダイ等の水産資源を活用した飲食や加工業、ホエールウォッチング、釣り筏等の遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。



【H30年度の実施状況と課題】

海洋資源を活用した、体験型・滞在型観光の推進を支援

▼実施状況

- 1次：潮干狩り復活に向け大規模被せ網を継続
天皇州での潮干狩りを試験的に部分開放
アサリ垂下式養殖の検証試験を実施
- 2次：浦ノ内地区地域住民自主組織が地域食材等を活用した
弁当事業の拡大
海洋高校がウルメイワシ加工品のレシピを開発し、量販店
での販売が開始
- 3次：浦ノ内釣り筏渡船振興会が修学旅行生等を受入れ
(24組、299名)
高知県漁協が団体客の受入れを目的とした新たな釣り筏整備
スポーツ合宿(カヌー競技)の受入

▼課題

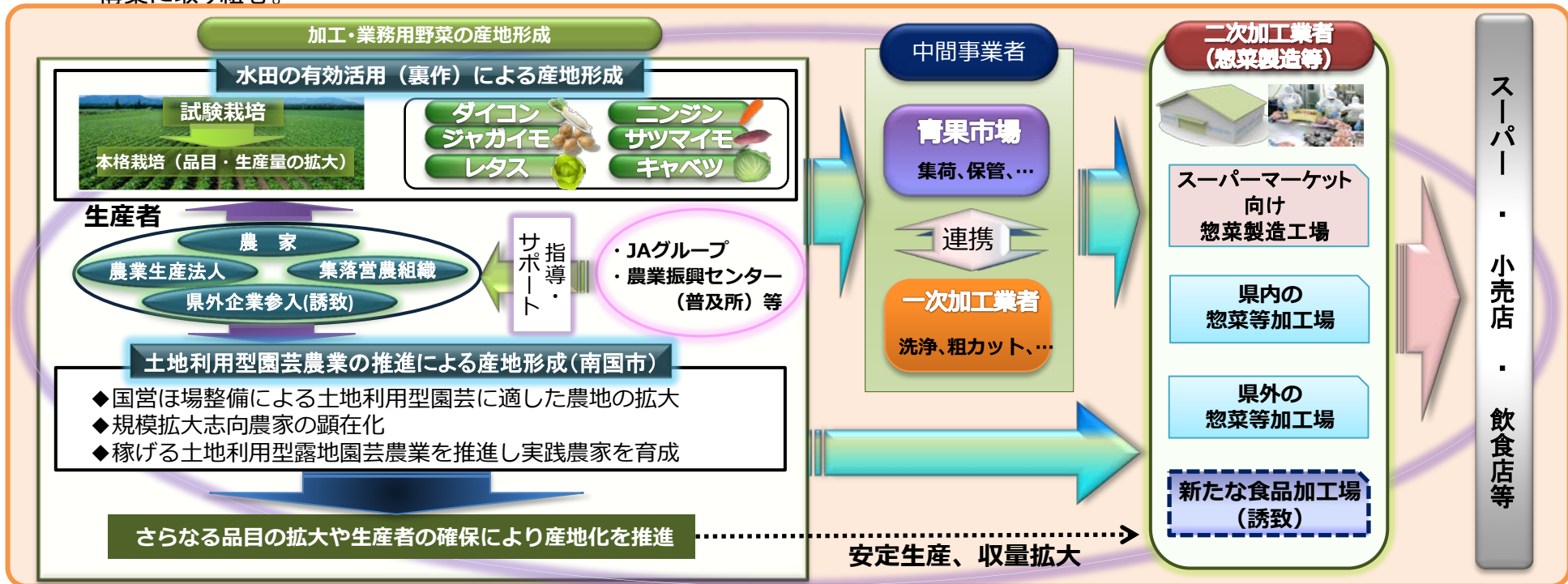
- ・観光資源の磨き上げと効果的なプロモーション
- ・土佐市及び須崎市の連携強化

【H31年度の実施予定】

- 全体：観光資源をさらに磨き上げるとともに、事業者間の連携により
観光商品としての売込みに着手
- 1次：潮干狩りの部分開放や養殖等、アサリの多面的利用の推進
- 2次：地域食材等を活用した弁当事業の拡大
ウルメイワシ加工品等のブランド化、販売促進
- 3次：釣り筏やホエールウォッチング等の集客拡大に向けた磨き上げ
観光・飲食関連事業者間の連携による観光商品としての売込み
スポーツ合宿の誘致の推進
海洋スポーツを活かした交流人口の拡大

食品加工① 加工・業務用野菜の産地化プロジェクト(県内一円)

・需要が増加傾向にある「加工・業務用野菜」の産地化を進め、マーケットイン型の商品開発や「生産・加工・流通・販売」までの新たな仕組みの構築に取り組む。



【H30年度の取組状況と課題】

栽培実証試験及びセミナー・先進地視察の実施により、加工・業務用野菜の産地形成を推進

▼取組状況

1次：栽培実証試験の実施

- ・キャベツ：2組織/30a栽培（12月～出荷）
- 加工・業務用野菜に関するセミナー・講演会の開催
- ・7月（県中央部開催/58名参加）
- ・2月（県西部開催/23名参加）

先進地視察の実施（10月、1月、2月）

- ・県内：キャベツ、ニンジン
- ・香川県：ブロッコリー
- ・愛媛県：加工業務用タマネギ

2次：一次加工業者視察の実施（1月）

▼課題

- ・品種の選定、栽培実証
- ・露地野菜の生産技術の向上
- ・生産地の拡大
- ・県内量販店等での県産野菜利用の促進

【H31年度の主な取り組み予定】

1次：**土地利用型園芸団地の育成とあわせた生産地拡大**

- 栽培実証試験の継続、生産地の拡大
- ・集落営農組織・農業生産法人等の掘り起こし
- ・現場指導者の育成、研修の実施
- ・出荷量の拡大、出荷結果を産地全体に共有

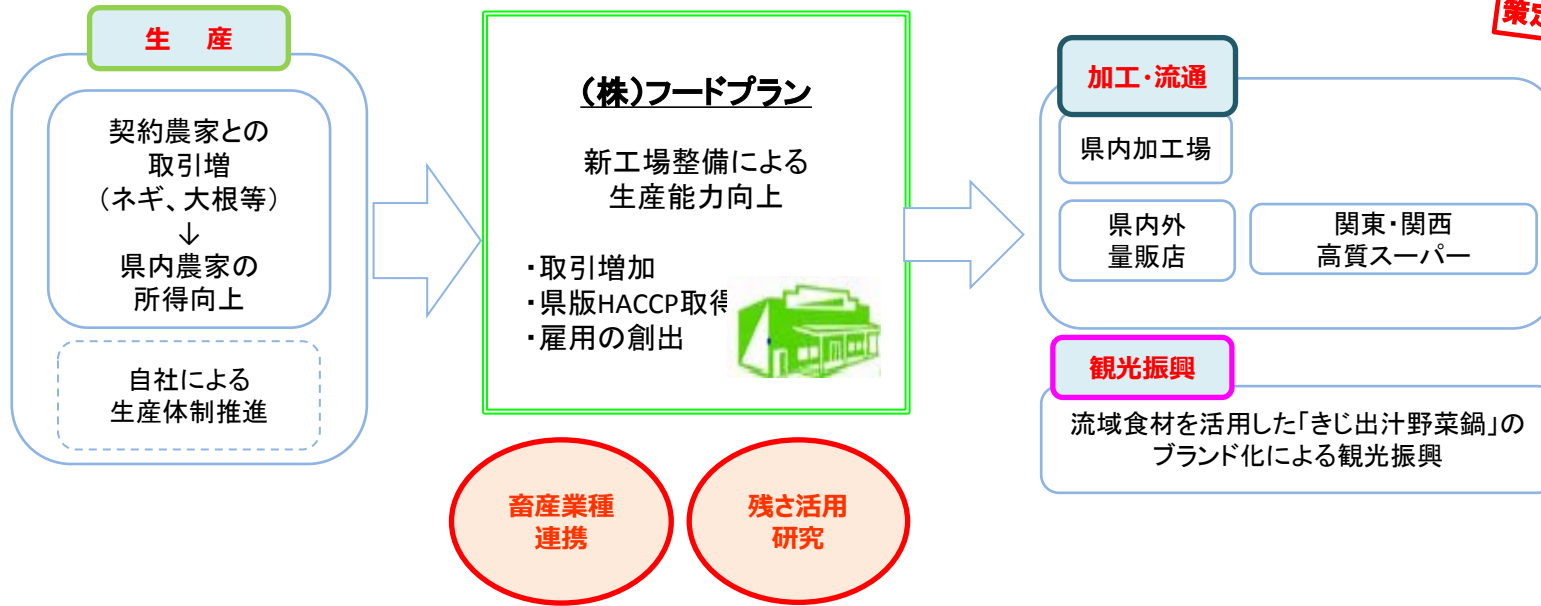
2次：加工・業務用野菜のニーズ調査

- ・栽培品目の選定・生産量の拡大
- ・産地化の目標設定の再検討
- 生産・販売セミナーの開催、先進地視察の実施と関係者への情報共有

食品加工② 株式会社フードプラン、仁淀川町等を中心としたカット野菜事業クラスター(仁淀川町)

・新工場整備によって生産能力を向上させ、県外量販店等との取引拡大を図る。
あわせて、流域食材のブランド化による観光振興、加工・業務用野菜の産地形成を推進する。

クラスタープラン
策定済み (H29. 2)



【H30年度の実行状況と課題】

県外量販店との取引拡大とあわせ、自社原料生産の仕組みづくりを推進

▼実行状況

- 1次：原材料となる野菜の産地形成に向けた品目の選定
地元農家へネギ栽培に関するアンケート調査を実施
加工用ネギにおける栽培方法の説明会を開催
加工用ネギの営農指導を実施
- 2次：**県版HACCP第3ステージ認証取得 (12月)**
野菜を活用したドレッシングの開発
- 3次：役場主催のイベントにて「きじ出汁野菜鍋」を提供し、ブランド化を推進

▼課題

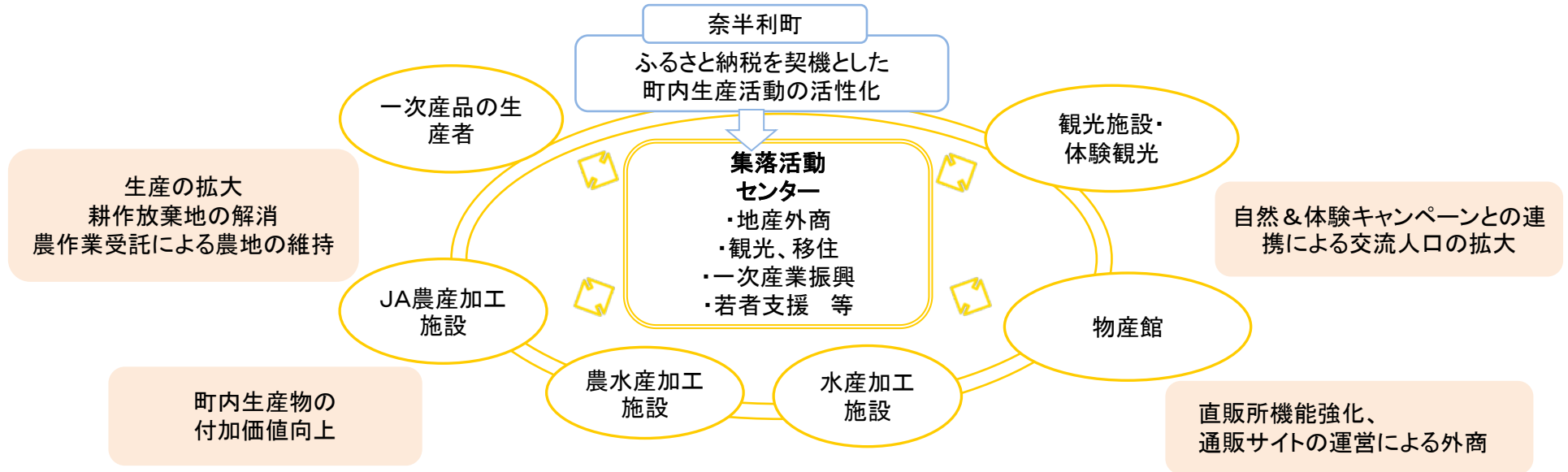
- ・自社原料生産体制の推進
- ・町内外における営農者の確保
- ・野菜を活用した加工品の開発
- ・「きじ出汁野菜鍋」におけるブランド化の推進および町内飲食店との連携

【H31年度の主な取り組み予定】

- 1次：加工用ネギの試験栽培を開始
関係機関と連携した営農指導などの支援
- 2次：**ドレッシングの商品化に向けた支援**
野菜を活用したその他加工品の開発検討
- 3次：町内のイベントで「きじ出汁野菜鍋」の提供
「きじ出汁野菜鍋」を地域への誘客へと繋げる仕組み、また、町内飲食店で提供する仕組みの検討

その他① 奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター(奈半利町)

・集落活動センターを拠点として、奈半利ブランドの確立と地域の所得向上につなげる。



【H30年度の実施状況と課題】

就農支援施設の活用による担い手の育成、農水産物や加工品の生産体制・集出荷体制の強化、集落活動センターの経営の安定化

▼実施状況

- 1次：町独自の新規就農者育成のための仕組みを作り上げ、2名が研修中（H31.3月現在）
「なはりの郷」所有のハウスを建設（17a）
農作業受託（畦塗り、耕起等）
施設栽培（ナス）、稲作、イチジク栽培等、露地栽培新品目導入（キュウリ、ブロッコリー）
- 2次：農水産加工施設の売上高:48,824千円(H30.12末)
(奈半利のおかって・加領郷魚舎)
- 3次：物産館（無花果）の管理運営
観光振興事業（観光ガイドブック作成、海浜センター事業計画作成等）の実施

▼課題

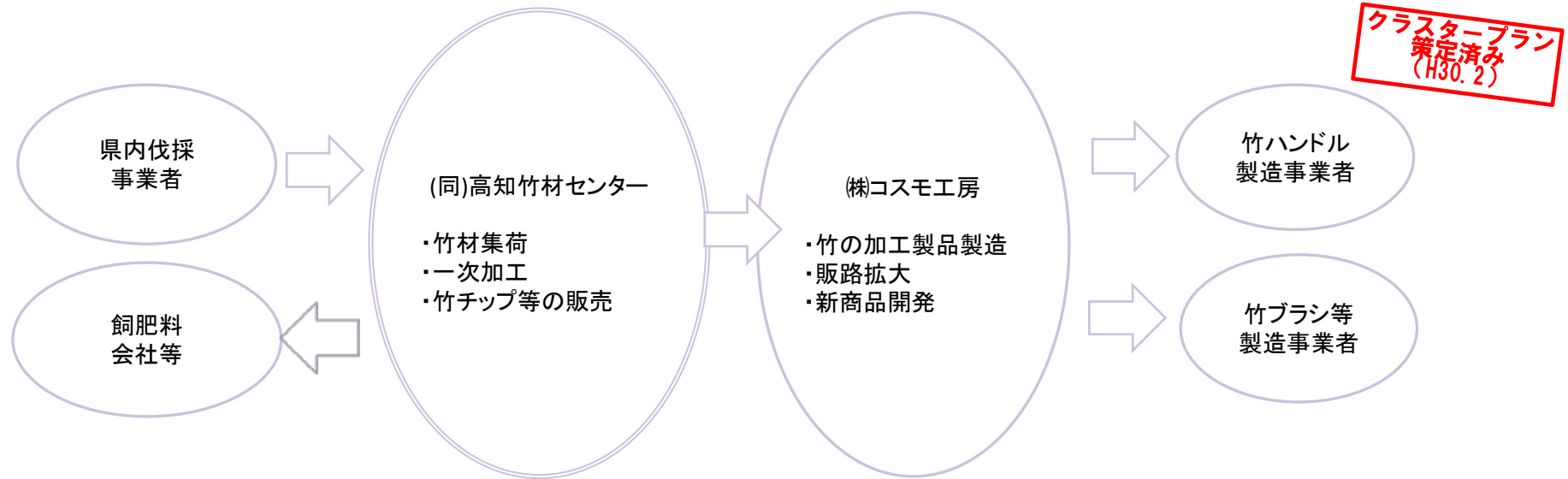
- ・農業部門における栽培技術の向上
- ・加工グループの人材確保、商品開発、ふるさと納税以外の販路開拓

【H31年度の主な取り組み予定】

- 1次：
実践研修生への指導強化（ナス）
農作業受託、不耕作地の解消（ジャガイモ、キュウリなどの栽培）
- 2次・3次：
加工品生産体制の強化（イチジク）
新商品の開発や商談会参加による販路開拓
自然＆体験キャンペーンと連動した体験プログラムの造成・磨き上げ
海浜センターの備品等整備
米ヶ岡生活体験学校の施設改修等

その他② 竹資源の活用による中山間地域の新たな産業の創出(高知市土佐山地区)

・県産竹材を活用した製品加工の拡大とともに、竹材の集荷や一次加工、竹チップの販売など竹資源を活用した新たな事業展開を図る。



【H30年度の実施状況と課題】

(同)高知竹材センターによる荒廃竹林の整備、
(株)コスモ工房による竹ハンドル素材、集成材、ブラシの柄等の
安定生産

▼実施状況

- 1次：竹林の整備、シイラ漁用の竹材の出荷（(同)高知竹材センター）
- 2次：自動車用竹ハンドル素材、集成材、ブラシ用柄等
竹製品の加工及び商品開発（(株)コスモ工房）
- 3次：見本市出展等による販路の開拓（(株)コスモ工房）

▼課題

- ・竹材供給体制の確立((同)高知竹材センター)
- ・伐採した原竹の保管場所不足((同)高知竹材センター)
- ・自動車のモデルチェンジによる竹ハンドルの需要減への対応
(株)コスモ工房)
- ・竹製品の新たな販路開拓(株)コスモ工房)

【H31年度の主な取り組み予定】

- 1次：
竹材の安定供給
原竹の保管場所の確保
- 2次・3次：
竹製品の新たな販路開拓、関係機関と連携した
安定経営に向けた事業戦略の策定

地域産業クラスタープロジェクトの追加（宿毛市イチゴ・柑橘成長プロジェクト）

宿毛市の主要農産物である文旦等の「柑橘類」と「イチゴ」の生産拡大を核に、加工・観光などと連携を強化することで、産業のクラスター化を図り、地域活性化に繋げる。

